

SOMPO福祉財団 NEWS



- 第26回SOMPO福祉財団賞 基調講演・シンポジウムを開催
- 自動車購入費助成 助成先を決定
- 住民参加型福祉活動資金助成 助成先を決定
- 介護福祉士養成のための奨学金給付 奨学生を決定
- 財団からのお知らせ

発行者 公益財団法人SOMPO福祉財団

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 損保ジャパン本社ビル TEL: 03-3349-9570 FAX: 03-5322-5257

<https://www.sompo-wf.org/> Eメール: office@sompo-wf.org

2025年度

vol. 2

2025.12発行

第26回SOMPO福祉財団賞 基調講演・シンポジウムを開催

7月19日(土)東京都千代田区のグランドアーク半蔵門にて、「SOMPO福祉財団賞*」の受賞記念基調講演、シンポジウムを開催しました。大学関係者、学生、企業・行政の担当者、社会福祉団体関係者ほか、約80名の方にご参加いただきました。

※「SOMPO福祉財団賞」とは

社会福祉分野における優れた社会福祉学術文献を表彰する制度です。社会福祉の学問的探求を志向する多くの学者、研究者の研究意欲を促進し、社会福祉の発展に寄与することを目的としています。

第Ⅰ部では、第26回「SOMPO福祉財団賞」の受賞者 風間 朋子氏(関西学院大学人間福祉学部社会福祉学科准教授)が、受賞著書『障害と所得保障～基準の管理から分配の議論へ』について講演されました。

第Ⅱ部では、『障害と所得保障～分配のあり方と基準設定をめぐる諸論点～』をテーマにシンポジウムを開催しました。会場からの質問も踏まえて、白熱したディスカッションがなされました。

参加者からは「社会保険制度の変遷がよく理解できた」「障害者の所得保障に関する論点を伺い、障害認定の現状や今後の課題をもっと学びたいと思った」「障害年金受給の正当な分配は丁寧な議論を行っていくことが必要だと思った」「社会保険制度の歴史的観点からの分析が非常に分かりやすかった」「障害認定の実務、障害所得保障の財政学における観点、認定と選別、認定基準の合理性などニーズを踏まえて日本において何を実現していくべきか実感できた」「経済学者を動かすのも一般市民であるということが分かった」「2025年の年金制度改革で残された障害者年金の見直しへのアプローチとして参考になった」「障害者認定の正確性を追求すると等級を補佐する制度が必要だと感じた」など多くの感想が寄せられました。

基調講演・シンポ
労働省・(一社)日本社会福祉学会・日本地域福祉学会
社会福祉系学会連合・(一社)日本ソーシャルワーク教育学校



<風間 朋子氏>



<シンポジウム>

【シンポジウムご登壇者】

パネリスト: 荒川 豊氏 [社会医療法人城西医療財団豊科病院ソーシャルワーカー]
安藤 道人氏 [立教大学経済学部教授]
永野 仁美氏 [上智大学法学部教授]
コメンテーター: 風間 朋子氏 [関西学院大学人間福祉学部准教授]
コーディネーター: 大島 巖氏 [東北福祉大学副学長・教授]
後藤 玲子氏 [帝京大学教授・一橋大学名誉教授]



<懇親会>

自動車購入費助成 助成先を決定

自動車購入費助成は、障害者に対する福祉活動を行う団体にとってニーズの高い自動車購入資金を支援する事業です。本年度は東日本地区を対象に2025年6月から7月にかけて公募したところ、52件の応募があり、以下の10団体に合計1,700万円の助成を決定しました。

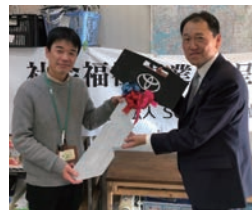
所在地	団 体 名	主 な 事 業	助 成 金 額 (予定) 万円
北 海 道	特定非営利活動法人 わたげ	障害福祉サービス（障害児者通所施設・居宅介護他）	170
北 海 道	特定非営利活動法人 ぼけっと	豊浦町を中心に洞爺湖町・伊達市で放課後等デイサービス	170
岩 手 県	NPO法人 Plus One Happiness	日中一時支援事業、基幹相談支援センター、共同生活援助	170
岩 手 県	特定非営利活動法人 カトレア会	就労継続支援B型事業サービス	170
山 形 県	特定非営利活動法人 アジェンダやまがた	音楽による障害の改善、QOLの向上を主として活動	170
埼 玉 県	特定非営利活動法人 あやの郷福祉会	就労継続支援を中心とした安全安心健康な障害福祉サービス	170
千 葉 県	NPO法人 ひびき	就労継続支援B型事業所と生活訓練事業所	170
富 山 県	特定非営利活動法人 ワークホーム悠々	精神障害者等が自立した社会生活を営めるよう支援	170
福 井 県	NPO法人 ぴーぷるファン	福井県越前市（旧今立町）の元気な就労継続B型事業所	170
岐 阜 県	特定非営利活動法人 ギフ福祉ネットワーク東部	障害者および高齢者向けの移動サービス・訪問介護・デイサービス	170

●助成先からの活動報告と贈呈式の様子



<Open Heart>

軽自動車の導入により、利用者の送迎がスムーズになり、移動時間の短縮が図られました。これにより、利用者がより多くの時間を施設内での活動に充てることが可能になりました。また、最新の安全装置が搭載されており、利用者の安全性が向上しました。（同理事長）



<しごとなかま>

利用者の送迎中心に活用しており、一日往復3～4人の送迎をしています。その他、物品や食材購入時に利用したり、内職作業の材料搬入完成品搬出納品等にも利用しています。今後、個別送迎その他臨機応変なニーズにも対応できると思われます。（同代表理事）

住民参加型福祉活動資金助成 助成先を決定

住民参加型福祉活動資金助成は、地域における高齢者・障害者・子ども等に関する複合的な生活課題に、地域住民が主体となって、包括的な支援を行う活動に必要な資金を支援する事業です。

2025年6月から7月にかけて公募したところ、44件の応募があり、以下の17団体に合計454万円の助成を決定しました。

所在地	団体名	助成する活動の名称 (内容)	助成金額 (万円)	所在地	団体名	助成する活動の名称 (内容)	助成金額 (万円)
滋賀県	JAGUARの部屋	みんなでつくる！ みんなが活躍！ JAGUARの畑	24	広島県	音訳ボランティア アグループ だんだん	デイジー録音図書作 成に使っているパソ コン等の更新	25
滋賀県	草津市里親会	子育てを地域で支え る未来推進事業	30	長崎県	冒険者ギルド 長崎の夜明け	障害者の力を借り た、高齢者と困窮世 帯への食事提供	30
京都府	HARETOKE	芸術表現を通した子 どもの居場所事業	30	熊本県	YOKA FC	障害を持った方の余 暇活動の充実と居場 所作り	30
大阪府	つむぎ	発達特性のある子と 学ぶ親子のやさしい 防災体験	30	宮崎県	ひとりひとりの気 づきを大切にする パーム・アウエア	地域で支える ところ のケア相談と連携支 援事業	30
大阪府	人間研究所こころラボ (こどもお笑い道場・こども お笑い防災食堂)	西淀川区役所共創事 業3つのお笑いコン テスト	30	鹿児島県	かごしま骨髄 バンク推進連 絡会議	命をつなぐコンサ ート	20
大阪府	学生地域参画隊 Convers	ハロウィンイベント 出店及び公民館との 共催イベント	10	沖縄県	のびのびひろば	物価高騰で困窮する こどもへの緊急支援 事業	30
兵庫県	ひめじ西里山 サポート倶楽部	多世代交流で孤独孤 立予防と防災力の向 上	30	沖縄県	こども食堂 だんらん	こども食堂だんら んの土台作り	30
奈良県	なら多胎っこ クラブ	多胎家庭の居場所づ くり事業	30	沖縄県	小波津団地 自治会	「ふれあいカフェ」 事業	26
和歌山県	和歌山市地区 社会福祉協議会	居場所づくりと情報 発信で「孤立」と向 きあう	19				

●住民参加型福祉活動資金助成 贈呈式を開催

関西地区合同贈呈式

11月4日に損保ジャパン肥後橋ビルにて、姫野関西総務部長にご参加いただき、関西地区の住民参加型福祉活動資金助成合同贈呈式を開催しました。

滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の9団体が出席して、各団体の活動内容の紹介と意見交換が行われました。



贈呈式の様子

広島支店

音訳ボランティアグループ だんだん

今回、初めて贈呈式に参加し、このような貴重な活動があることを知りました。私たちの貢献が少しでもお役に立てたことを嬉しく感じると同時に、ボランティアで活動を継続されることの尊さと大変さを改めて肌で感じました。

ボランティア団体の存在や活動内容を広く知っていただくための発信をすることで、活動の認知拡大に繋がることを願っています。(広島支店 佐々木さん)



介護福祉士養成のための奨学金給付 奨学生を決定

全国の介護福祉士を目指す専修学校、福祉系高等学校の学生・生徒向けに募集を行い、専修学校生12名、高校生2名の合わせて14名の奨学生を決定しました。1992年から本制度を開始し、昨年度までの33年間で奨学金対象者は353名にのぼり（奨学金総額約2.4億円）、卒業生は全国の介護関連施設で活躍しています。



●学校訪問

このたび奨学生が学んでいる「せいとく介護こども福祉専門学校（北海道札幌市中央区）」「関西社会福祉専門学校（大阪府大阪市阿倍野区）」を訪問しお話を伺いました。

せいとく介護こども福祉専門学校は日本初の厚生労働省指定の介護福祉士養成校であり、創立100年以上の歴史を持つ伝統校です。礼儀や思いやりを重視し、国家資格取得と高い就職率を誇ります。同校は本奨学生制度が開始した時（1992年度）から奨学生を輩出しており、現在まで18名の卒業生が介護業界で活躍しています。



奨学生のお二人（左、中央）

関西社会福祉専門学校は介護のプロフェッショナルとして社会で活躍するために、思いやりのこころと確かな技術を兼ね備えた介護福祉士を育成しています。ネパールからの留学生の彼女は積極的にコミュニケーションを図り日本人社会に溶け込んでいて、成績もトップクラスということです。



留学生（中央）と事務局の方（左）

奨学生候補の選考から採用後のフォローまで、現場できめ細かくご指導いただいている様子がよく分かりました。奨学生の方もその期待に応えようと日々努力しているとのこと。両校とも海外留学生比率が半数を超えており、介護業界は外国人に支えられていることを実感するとともに、専門用語を日本語で理解することはとても大変だろうなと感じました。立派な介護福祉士となり、社会に羽ばたいていくことを祈念しています。（福祉財団 澤）

財団からのお知らせ

<（公社）認知症の人と家族の会主催の第41回全国研究集会を後援しました>

10月26日に北海道札幌市厚別区で、「最期まで「私」らしく生きたい」というテーマで同研究集会が開催されました。全国から認知症の人および介護家族が参加し、認知症になったとしても、最期まで私らしく生きるために、食べること、住むこと、医療を受けること、意思決定をすること等について考え、認知症になったとしてもおしまいではないことを学び合いました。



<世界アルツハイマーデー>

9月21日は世界アルツハイマーデーで、日本各地で認知症支援のオレンジライトアップの取り組みが行われ、損害保険ジャパン本社ビルもライトアップされました。

